

財団だより

第140号

2013.12

多摩川

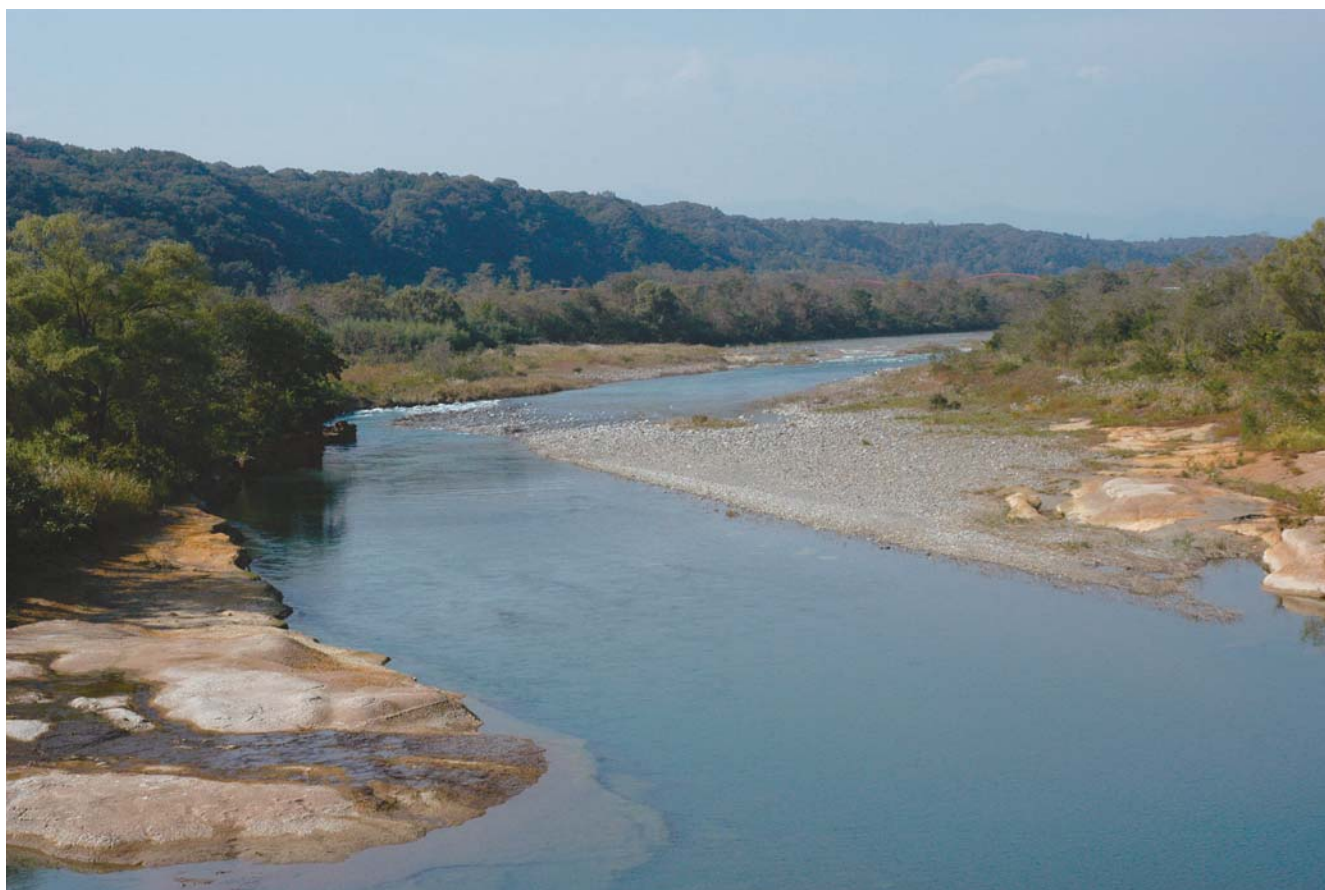


Photo & Text
遠藤 颯彦 (Hidehiko Endo)
渋谷区在住

■ 拝島橋 ■

青梅線の終点拝島を降りて、拝島橋迄歩くのは時間の無駄と思い、車をひろって拝島橋まで直行。と云っても多摩川の土手まで、車を降り多摩川の土手の上を歩く事 20 分程度。ここの河原はとても広く、しかもその中に草原・林・水たまり等があり、自然そのままの景色。この河原はとても変化にとんでいるので、色々な生物たちが住んでいる。この穏やかな美しい景色の中、足下でお互いに生きる為のドラマがくりひろげられていると思うと不思議な感じが致します。

大空から獲物を狙って飛んでいるノズリ(クソトビ)や鷺の姿や、水の中で草むらの鷺の遊ぶ姿を見ていると我々都市部に住んでいる者にはなかなか見られぬ風景に、つい見とれてしまう事もしばしばでした。

Contents 目次

巻頭言	2
特別寄稿	3
多摩川に学ぶ	4
多摩川散歩	5
私と多摩川	6
歴史・多摩川	7
多摩川スケッチ散歩(12)	8
環境 TOPICS	10
インフォメ多摩川	11
財団からのお知らせ	
助成研究募集のご案内	15

巻頭言

流域ガバナンスの財政学



大阪市立大学名誉教授
滋賀大学名誉教授
第5回とうきゅう環境財団
社会貢献学術賞受賞

宮本 憲一

9月16日、私の自宅の横を流れる桂川が氾濫し、嵐山の渡月橋周辺のホテル、料理屋など観光施設に被害が出た。さらに17日には伊豆大島で山崩れと河川の氾濫で多くの犠牲者が出た。最近では異常気象であるとはいえ、洪水による被害が繰り返し、改めて治水が問題となっている。中には環境保護から中止していたダムの建設や巨大なコンクリート堤防の必要を説く者もいる。その要求がすべて間違っているのではないが、流域管理を環境政策以前にもどしてはならないだろう。

水政策は国土政策の基本であるが、治水、利水、保水、親水の4つの側面が総合されなければならない。高度経済成長時代までは、治水と利水が水政策の中心であった。その具体的な対策が多目的ダムであった。日本のおもな河川ではダムのないのは四万十川と長良川だけといわれるほど、全国の河川にダムが作られた。長良川河口堰の問題を契機に、自然保護やアウトドア・スポーツなどの団体からダムの建設に強い反対が起こった。経済的にも低成長と産業構造の転換から水需要が大きく減少し、費用便益分析の上でもダムに巨額の公共事業費を出すメリットは小さくなった。治水や利水という伝統的な水政策以外の政策目的が重要になってきたのである。

保水というのは私の造語だが、水資源の量的・

質的保全の事業である。急激な都市化・工業化によって水資源の枯渇と汚濁、生態系の破壊が加速度的に進んだ結果、今後の河川管理、特に環境保全のために生じた事業である。発生源の水質浄化、下水道、終末処理場などのハードな施設の建設と管理だけでなく、森林や里山の保全、農業などの化学物質の利用の制限や周辺住民の環境保護のための活動が求められる。親水というのは80年代以降の水郷水都運動の提案者で都市計画家高田昇の造語だが、景観保全、アウトドア・スポーツなど水環境とアメニティのある都市生活を共存させる事業である。

4つの水政策は相互に関係しているのが、それは流域全体で総合されなければ実現できない。このことは淀川水系流域の維持管理問題で明らかになった。この流域ガバナンスで最も遅れているのは、その事業を進めるための行財政制度である。最近出版された諸富徹・沼尾波子編『水と森の財政学』（日本経済評論社）がその最初の業績で、日本財政学会でも取り上げてシンポを開いた。そこで解ったことは、ガバナンスの困難である。石崎淳子氏によれば、1988年から民有林の施設・監督は市町村に任されているが、森林行政担当職員は平均2.7人、専従は1.4人、森林管理専門の経歴の職員がいるのはわずか1団体である。市町村合併の結果、山村から役場なくなったので、森林行政が弱体化したのである。都道府県林業費の半分は森林保全というよりは普通建設事業である。

2003年高知県が始めた森林環境税以来33県が課税をしている。中でも流域ガバナンスの手段として県民会議をつくり、制定した神奈川県の水環境税が注目される。しかしいずれも金額は小さい。この森と水を総合する流域ガバナンスの行財政制度の確立はまだこれからである。

特別寄稿

河川の好感度



東京工業大学大学院 教授
当財団 選考委員

齋藤 潮

学生達に河川の事例写真をいくつか提示して、その景観を評価してもらうという簡単な実験を、ここ数年続けている。筆者が受け持つ大学2年生向けの講義「景観学概論」で、とにもかくにも景観に関心をもってもらうための手段としてやっていることなので、実験のやり方はあまり厳密ではない。もっとも、学生個人の気まぐれな評価を回避するために、ちょっと工夫した。評価の前提として、「婚約者と一緒に住むならどの河川の傍がよいか」を問うたのである。また、堤内地の様子が評価に影響を与えないように写真を調整した。

事例写真は毎年同じで、大河川として、阿武隈川（福島市渡利地区）、信濃川（新潟市万代橋付近）、太田川（広島市中央公園付近）など。中河川として鴨川（京都市三条大橋付近）、大畑川（むつ市）、新町川（徳島市新町公園付近）など。小河川として壇具川（下関市長府）、神田川（杉並区富士見ヶ丘駅付近）などといったところである。残念ながら多摩川は提示写真に含まれていない。なお、実験では河川名は伏せてある。

大河川では、例年、きまって評判が良いのが阿武隈川渡利地区（右岸、写真左、ただし実験のものやや異なる）と信濃川万代橋付近（左岸、写真右、同前）で

ある。いずれも高水敷がゆるやかに傾斜した草地になっている。学生達はそれぞれ「婚約者」を想定し、ピクニックをしたり、散策したり、子供たちを走り回らせたり、一緒に寝転んだりするイメージをそのゆるやかな草地に重ねているようだった。

阿武隈川では、草地をゆるゆると通る路の評判がよかった。舗装されない三和土のような裸地で草地との境目がはっきりせず、なんとなく路が付いているふうなのがよいのだという。ただ、信濃川には注文がなかった。低水護岸の天端に進入防止柵があって水面への立ち入りを拒絶している。学生によってはこれが気に入らないらしい。しかし、なければならないで、子供の安全が心配という女子学生もいた。

河川はもとより河川であって、天候によっては増水し、河川敷は水面下に沈む。しかし、人々は、平時にはのんびりした時間を受け止める懐の深さをそこに求めているらしい。河川敷に野球場をつくるとか、パターゴルフ場をつくるとか、そういう目的的な河川敷のまとめ方と、懐の深さとは違うように思う。

ずいぶん昔のことになるが、筆者の先輩にあたる岡田一天氏は、多目的ではなく、非単目的を旨とした河川敷整備が大事だと論じた。まことに、そのとおりだと、今更ながら思う。河川敷で野球に興じる子供たちを眺めるのは確かに楽しいが、「野球場化」した河川敷に、河川としての豊かさを見出すことは難しい。とくに、誰もいない時、「野球場化」した河川敷に野球のイメージは重ねられても、オオヨシキリの声を遠くに聴きながら、寝転んだら気持ちよからうというのんびりした想像は浮かんで来ないから。多摩川さん、ごめんなさい。



阿武隈川渡利地区



信濃川万代橋付近

多摩川に学ぶ

うのき水辺の楽校 開校

うのき水辺の楽校

事務局長 森田 光一

大田区は多摩川が東京湾に注ぐ東京側では最後の地というアンカー的存在であるにもかかわらず、これまで「水辺の楽校」がありませんでした。しかしながら、多摩川に隣接する大田区立嶺町小学校では、これまで嶺町ランチや川渡りなど多摩川並びに河川敷を利用した活動を長年続けてまいりました。私も10年前子供たちと一緒に多摩川に入る機会がありました。私が子供の頃、およそ40年ほど前が一番汚れていたのかも知れません。意外とキレイ。ライフジャケットで浮かんで流れる。超気持ちいい！子供たちの歓声以上に大きな声を上げたかも！？我々はこの素晴らしい環境を嶺町小学校の生徒だけでなく、近隣の小学校や地域の方を始め多摩川上流の子供たちにも安心して利用してもらいたいと考えました。それには「水辺の学校」を立ち上げることが最良であることが、いろいろな方々からのアドバイスにより分かり、よし！「ここに水辺の学校をつくらう」と決まりました。

ここ鶉の木の地域には大きな特徴が3つあります。一つは、汽水域であること。近年外来魚が多く繁殖して生態系が乱れるという河川や湖沼が多いのですが汽水域では外来魚が繁殖しにくいいため、昔ながらの多



摩川では外来魚が繁殖しにくいいため、昔ながらの多



くの生物が生息しております。先日のガサガサでもたくさんの生物の採取ができました。甲殻類だけでも「弁慶がに」、「モズクがに」、「手長えび」、「白えび」等、変わったところでは「うなぎ」も石の下に潜んでいました。

二つ目は、「多摩川でボートを楽しむ会」や「日体大カヌー部」の練習地として川を利用したスポーツが常に身近にあることです。先の東京国体では、大田区で唯一の正規開催競技種目であった「カヌー」ですが、東京代表選手もこの水域で練習した選手から多数選出されました。嶺町小学校の子供たちは、毎年夏にボート教室に参加したり、カヌー教室へ参加したりすることを楽しみにしております。スポーツの場としての川活動ができる地域は少ないのではないのでしょうか

三つ目は、河口付近特有の広い河川敷を有しており野球やサッカーなどのグラウンドとして活用されていることです。この広い河川敷グラウンドを利用してスポーツはもとより、嶺町ランチ（給食をお弁当風にアレンジしていただき河川敷で食べ河川敷で遊ぶ）やお正月の風物詩のドンド焼き、凧揚げをして遊んでおります。

今後は、河川敷の植物観察と食べられる野草体験、野鳥観察、河川敷の虫採集、ガサガサ体験と水棲生物観察、川渡り、川流れ体験、ボートやカヌー体験、河川敷での遊びを中心に自然環境への保全意識高揚と好奇心を大切に育めたら良いと思います。水辺の楽校は組織化され、やっとスタートいたしました。このように素晴らしい宝が一杯詰まった多摩川を一人でも多くの

子供たちに体験していただきたく、活動を広げてまいりますのでご理解とご協力をよろしくお願いいたします。安全第一で、楽しい多摩川を皆さんにお伝えいたします。ぜひ遊びにいらしてください。



多摩川散歩

■ タマゾン川のナマズ ■



東京海洋大学客員教授
当財団選考委員

奥山 文弥

先日、カナダのBC州（ブリティッシュコロンビア州）のスマザースと言う田舎町に住む友人からメールが来ました。日本人にはまったく無名の町ですが、近所のボルクリイ川に行ったら80cmぐらいのテツガシラ（降海型ニジマス）が釣れたそうです。英名ではスティールヘッドと呼ばれる魚です。自宅の近くの川にそんな魚が上ってくる環境があることが羨ましいです。

私たちの地元にはタマゾン川と呼ばれる素晴らしい多摩川があります。タマゾンの由来は、もとはアマゾン川に負けないほど豊かで魚が多いからでしたがマスコミによって捻じ曲げられ、熱帯魚が棲む異変の多い川と悪いイメージを付けられてしまいました。

多摩川は流域で多くの人がある水を利用し、戻しているため、本来の河川とは違った生態を持っていますが、意外にも非常に魚が多い川です。年間を通じて釣りをし川とふれあうことでそれは十分にわかります。

ところで多摩川にナマズがいるのをご存知でしょうか？実はタマゾンと命名（あだ名）をした私の友人はこの魚から発想したそうです。アマゾンにも大ナマズがたくさんいますからね。ナマズが暴れると地震が起きるといふ言い伝えもあります。信じない人もいますが、ナマズと地震の関係を研究している学者もいるほどなのです。



ナマズは貪欲な魚で基本的には夜行性です。コイやアユなどのように日中に人目のあるところに出てきませんから多摩川においてもその存在を知らない人もいます。最近知ったのですが、多摩川のナマズは日中でも活発に捕食活動を行います。全国的には夜釣りが普通ですが、多摩川では明るい時間に釣れます。

ナマズはその姿やイメージでちょっと深くて流れの緩い場所にいます。多摩川では浅い瀬の中にもいます。ルアー（疑似餌）で釣りをすると前述のテツガシラのようなサケ科魚類と同じような速い流れの中でヒットするので驚かされます。浅瀬にいる小魚を捕食するためにその場所に来るのでしょう。東京湾から大量に溯上するアユも格好の餌ですし、それに加え、オイカワやウグイ、スゴモロコなど、コイ科の小魚たちがおびたしい数でいるので、苦勞せず捕食できるのだと考えられます。ですから夜に忍び寄るように索餌しなくてもいいわけです。



時には岩陰やテトラポッドの隙間に身を潜めているのが見えます。ルアーを投げ込んで目の前を通過させると、追いかけてきてパクッと食いつくのが見えるときもあり、非常にエキサイティングな釣りになります。

このナマズの存在をもっとアピールし、タマゾン川の汚名返上にも役立たせたいと私たちは思っています。

私と多摩川

多摩川のふところに誘われて



おくてん2013

運営委員長 清水 孝啓

東京都の西端に位置する留浦（とずら）から流れてくる多摩川と、同じく北端の日原を源流とする日原川が氷川で合流し、丹縄まで下る川の流りに沿うように道が走り、そこに私たちの住む奥多摩町があります。

過疎化という困難な問題を抱えていますが、その中で密かに増えているのがアートに携わる人たちです。

川下の街から流れをたどり道を登るように上へ奥へと進み、そこに住处を得て創作活動をしている人が相当数いることを、何でも前から奥多摩で住んでいても知る人はあまりいませんでした。



石山久輔（洋画）
アトリエ併設ギャラリー

何故奥多摩にそういう人たちが増えて来たのかと言えば、その一つは自然の豊かさ素晴らしさだと思います。心地よい沢の音・木々の葉のふれあう音・小鳥や虫の鳴き声、空の青・木々の緑・澄み切った川の流れ、五感に伝わる自然の恵みが心を和ませてくれます。

多摩川の流れを中心にした奥多摩の自然の中は、創作活動に集中できる環境であると同時に、自然そのものが作家のモチーフにもなっています。そして、地域に根付こうとしている作家に、周囲の人たちは温かく接し見守ってくれています。

こういった素晴らしい町の特徴を、地域の人たちを始めとして、どれだけの人たちが意識し生かしているのだろうかという疑問を感じる作家が少なからず出て来たのです。この地域の魅力を多くの人に知ってほしいという気持ちは、作家達のつながり（OACFの発足）を広げアートフェスティバル開催へと動いて行くことになりました。それが4年前に行なった第1

回おくてんでした。

おくてんの基本的スタンスは、奥多摩町に住んでいるか工房等（ギャラリーを含む）の活動拠点があり、



白井建治（漆芸）工房内展示コーナー

アートに関わる仕事をしている人がその場所を解放し、地域の方々を始めとして訪れる方々との交流を通して奥多摩とアートの魅力を伝えていくことです。

アートとはいっても美術に関することだけではなく、創造といえるもの総てを含んでいます。

今年5回目を迎えた「おくてん2013」は、31の会場で43のアートと50の協賛店が参加し、奥多摩町とOACF（奥多摩アート・クラフト連盟）との



おくてんパンフレット表紙

主催によって、9月の1ヶ月間開催されました。

保育園から小・中学校の園児・児童・生徒を対象としたワークショップも企画し、それぞれ別の作家が創作の楽しさ・素晴らしさを奥多摩の未来を託す子どもたちに伝えてきました。

回を重ねる毎に、参加する作家・施設・協賛店を始めとし、訪問して来られる人も増えてきました。今後もまた、多くの魅力あるアートを発信して行きたいと思っています。



ワークショップ展示会
（せせらぎの里美術館）



参加作家の小品展
（せせらぎの里美術館）

歴史／多摩川 府県境界の確定



NPO 法人多摩川エコミュージアム
監事 長島 保
(地域史研究家)



左は市販の道路地図の一部だ。多摩川下流、大師橋付近が描かれているが、赤い点線に注目して欲しい。もちろんこの赤点

線、東京都と神奈川県との境界線を示している。子細にみると、なんと、大きく波形を描き、一部は左岸に近づいて、東京側の河川敷きを、神奈川県に取り込んでいる。

ところでこの境界線、右岸は神奈川県だけが多摩川に関わっており、すべて川崎市域が沿岸を成している。いま、上流に目を移していくと、丸子橋付近までは多少左右にぶれを生じて、河身のなかにきちんと収まっているのだ。だが、そこから上流は河川敷の様相が大きく変わったためか、河身の流れから外れてしまうケースが連続する。ではこの境界線、いつごろ、何を基準に定められたのであろうか。ずばり、結論を先に示そう。

いまから100年ほど前の1912(明治45)年のことだ。第28帝国議会で「東京府神奈川県境界変更二関スル法律」が可決され、同年4月1日から施行となった。その結果、ここに「多摩川ノ河身中央線」を府県境界線に定めることが確定したのだ。

さらに同年7月には、「橘樹(たちばな)・荏原両郡の境界変更に関する協定書」が作成され、発効した。両郡長を筆頭に、橘樹郡下の高津・中原・御幸・川崎、荏原郡下の玉川・調布・矢口・六郷の8か町村長が署名捺印している。同時に、両岸に散在していた飛び地は、すべて整理されることになった。そのことは、いまでも両岸に同じ地名を残すこととなった。

とにかく、多摩川の河身中央線が両府県の境界線と決まったわけだ。それから100年近く。その間、1933(昭和8)年度に下流域では、国庫半額負担による改修事業が10数年の歳月をかけて竣工した。この事業で両岸には、連続堤が築造されたが、長大な堤外地では、大掛かりな浚渫工事も進められ、河川の様相は大きく変容した。

それに加えて、近代史上空前といわれる明治43年(1910)大水害で、各所で破堤、氾濫が起こった。その後の、台風や豪雨などによる堤外地の変化も繰り返された。このような長年月の間に生じた河川状況の変化は、河身の中央線と定めた境界線を大きく崩してしまったのだ。

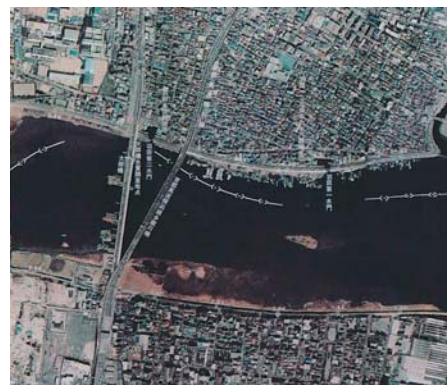
この府県境界変更問題、多摩川改修運動の一環として取り組まれた。多摩川の流路変遷は、前時代から続くが、しばしば一つの村を分断して、各所に飛び地をつくった。この飛び地の存在は、水防、築堤などを行う上では、行政上たいへん妨げとなっていた。

やがて住民たちが動き出した。明治44年(1911)1月、飛び地を抱える福田村ほか5か町村の代表らが、「東京・神奈川府県町村区域変更二関スル請願書」を時の政府と国会に提出した。その文面には、「犬牙錯綜(けんがさくそう)セル」飛び地の実情や影響が詳細に綴られている。

また、この請願に先立って、神奈川県側の橘樹郡役所が、右岸での飛び地の戸数・人口・地籍反別などを調査している。その際、大洪水で被害を受けた田畑反別を次のようにまとめている。

御幸村	田 393 町 3 反 5 畝余・畑 155 町 6 反 7 畝余
中原村	田 156 町 2 反 3 畝余・畑 85 町 6 反 3 畝余
福田村	田 337 町 7 反 8 畝余・畑 108 町 4 反 9 畝余
高津村	(堤防決壊ニヨル) 田 15 町余・畑 20 町余
	(氾濫ニヨル) 田 7 町余・畑 10 町余

このうち御幸村と中原村は、東京府の飛び地にそれ



多摩川の空中写真(『新多摩川誌』から)旧大師橋付近、東洋一の名橋といわれた川なかに描かれた境界に注目

ぞれ堤防がないために被害を受けたとしている。福田村の場合は違って、東京府飛び地である下布田堤防120mの決壊による浸水被害だという。

たまがわスケッチ散歩 (12)

多摩川中流域(立川・国立・府中付近)

多摩川中流域の立川・国立・府中市付近は右岸より谷地川・浅川・程久保川・大栗川・乞田川と中小河川の支流が集まってきて浄化処理水の多摩川に自然水がブレンドされて再生されてくる。

一方、左岸からはほとんど流れの無い残堀川が入っており、この旧川道に沿って今話題の立川断層が走っているが、古来より人が集まり文化も運動して発達している。



① 小宮砂層

拜島水道橋から多摩大橋付近まで約4km第3紀海成砂層の小宮砂層は鬼の洗濯板状に露頭している。貝殻などを見つけることができるが、八高線鉄橋下ではクジラの化石が発見さ昭島クジラとして現在上野の科学博物館に展示されている。中にはハヤやウグイなどの小魚が泳ぎ回り、罅穴(ポットホール)という中に石のに入った穴などを見つけることができる。多摩川8景に選定されている。

② 普濟寺

残堀川が多摩川と合流する河岸段丘の上にある横をJR中央線が通っている。特に冬の眺めは抜群で新東京100選に選ばれている。1350年ごろ武蔵7党の一族である立河氏の居館であったところで、国宝六面石幢(せきどう)が無料公開されている寺でも有名。平成7年に焼失し、現在は再建され、まだ木の香も漂っている。



③ 日野橋・立日橋

交通渋滞の名所であった日野橋も平成元年に開通した立日(たつひ)橋の開通と平成12年に開通した2階部分の都市モノレールにより解消した。この両橋の間の段丘からは富士山を正面にみることができ、眼下には葦原が広がっている。



④ 城山緑地 旧柳沢家住宅

城山緑地の青柳崖線の下にあるこのかやぶき住宅は元甲州街道の青柳村にあった農家。建設年代は不明ではあるが江戸時代後期の建設であろうと推定されている。かやぶき屋根の中には土間や囲炉裏がたかれよく管理されている。南側の庭先には風よけ日よけのためのシラカシの高垣が育てられている。前には田んぼが広がっており、桃の畑などもあり、昔の農家の原風景がそろうている。



⑤ 谷保天神

大鳥居は甲州街道に面している。社伝によると903年に菅原道真の三男が父を弔うために作ったといわれている。立川崖線に沿って作られ、甲州街道から入ると画面中央に見える約20mの階段を下り右側に本堂があるという珍しい造り。崖面からは小さな滝が2条流れている。(画面中央) 境内にチャボが遊んでいることでも有名。



⑥ 四谷橋

多摩川に懸る府中市と多摩市を結ぶ四谷橋は多摩川には珍しい2連の斜張橋。地震調査研究本部の資料ではこの斜張橋の中央付近から立川断層が始まるとされている。程久保川が多摩川と合流する地点から描いたもの。



⑧ JR南武線鉄橋

多摩川左岸の風の道が府中市健康スポーツセンター付近で、府中本町から南下し多摩川を渡る際には南武線の鉄橋と武蔵野貨物線のディビダーク橋が並んでいる。その対岸はすぐに河岸段丘となり稲城トンネルへとつながっている。



⑦ 石田橋

JR日野駅付近の甲州街道の渋滞緩和のために作られた日野バイパスが多摩川を渡る地点に架かる石田大橋。遠景には富士山が真正面に臨むことができる。足下の堰は四谷本宿堰で府中市方面へ流れている。

⑨ 小野神社

武蔵の国一之宮という格式ある神社。8世紀の中ごろの創建といわれているがはっきりしたことは分からず、唯一残されている隨身像は1319年の作と書かれていた。いつれにしてもかなりの古刹。しかも、この付近は全くの平らな境内で、立川断層はここから始まるといわれているが、付近には崖線も斜面もみることができない。



⑩ 稲城大橋

中央道が国立府中インターの手前で稲城方面へ出る支線。民主党政権になった時、無料化の対象となったもので右端にある青色の料金所は今はない。



⑪ 都立浅間山公園

多摩霊園の西に隣接する古多摩川の中州として取り残されたような小高い丘。スケッチの頂上からは周囲360度の景観が広がる特に富士山の見晴は絶景で冬至にはダイヤモンド富士を見ることができる。



⑬ 府中郷土の森博物館

府中市の歴史的建造物を主に展示している野外の博物館ではあるが、梅林や芝生広場、水遊びの池、野外ステージ、プラネタリウムなどかなりゆとりよく整備された総合的な公園。スケッチは府中宿の旧大田中家住宅で、明治天皇の御座所としても使われた家。現在は一部蕎麦屋としても使われている。



⑫ 大國魂神社

京王線府中駅前から源義家が寄進したというケヤキ並木の参道が続いており、武蔵の国の総社 境内はかつての武蔵の国の国府跡。5月5日のくらやみ祭りはとくに有名で武蔵の国の6宮から神官が集まり祈禱する。最近ではパワーポイントとして若い人も集まっており安産の神としても名高い。

画と文 野尻明美 (のじりあけみ)

一級建築士、工学博士(東北大学) 科学技術庁長官賞、紫綬褒章 受章 東急ハンズ大賞クラフトの部 入選 「水彩スケッチと10の活用術」 日貿出版社 他技術書多数

環境 TOPICS

多摩丘陵の植物を見つめて 60 年



八王子自然友の会
会長 畔上 能力

1945年8月2日に八王子大空襲、同月15日に第二次世界大戦終結という、たいへん厳しい時代を過ごしたが、ようやく生活も落ちついてきた1953年、発足したばかりの日本植物友の会に入会した、戦前戦後にわたる労苦がいつの間にか父の体を蝕み始め、再生不良性貧血で倒れることが多くなり、少し野外を散歩したらよいのでは、といった単純な考えからだったが、入会してみると自然界の奥深さに心打たれることが多く、急速に植物にのめりこむこととなった。しかし父一人では危険なので、必然的に私が付いていくこととなり、私も植物に興味をもつこととなった。八王子市には農水省林業試験場浅川分室（現森林総合研究所多摩森林科学園）があり、草下正夫、林弥栄、小林義雄各先生方から基礎知識を学ぶことが出来た。とくに林弥栄先生らによる「高尾山天然林の生態ならびにフロラの研究」（1965）の現地調査には友人の菱山忠三郎氏と共に参加させていただいた。また、1961年以降の東京都文化財総合調査自然部会（本田正次会長）による第1次多摩丘陵植物調査（1961）、第2次浅川流域植物調査（1962）に参加させていただき、三多摩の丘陵部に



当時の長池



姿を消したジュンサイ



岩根入り池と今は亡き父



姿を消したトキソウ

目を開かせていただいた。

長池（旧南多摩郡由木村別所）蓮生寺の存在とその重要性を知ったのはこの調査によるところが大きかった。特筆すべき植物としてはジュンサイ、ミズオトギリ、サワギキョウ、ヒツジグサなどが挙げられる。その後、1967年7月30日に長池調査を行った折、干ばつにより長池の水まで吐き出してしまい、ジュンサイをはじめ希少な水生植物の多くが姿を消し

てしまったことはまったく残念であった。ともかくも長池、蓮生寺は残すことが出来た。ミズオトギリやサワギキョウは現在も公園内で元気に再生している。

1966年には南多摩郡多摩町（現多摩市）乞田にあった岩根入り池（岩ノ入池）の植物調査を現地の故長谷川幸次郎氏らと実施した。今では多摩地域から姿を消したモウセンゴケやミズチドリ、トキソウ、ヒナザサ、ヤチカワズスゲ、サギスゲ、シズイ、カキラン、ミズトンボなど多数の植物が見られた。もう少し調査が入るのが遅かったら未調査のままで終わるところであった。ここは残念ながら姿を消した。

1970年より畔上能力、菱山忠三郎、吉山寛3名で旧東京都南多摩郡域に入る八王子市、日野市、町田市、多摩市、稲城市の5市の植物調査を開始し、また、同時に並行してこの地域の池に自生する水生植物の調査も実施した。これは多摩市の岩の入り池や八王子市別所の長池とその周辺に見られるようにわずかの間に姿を消したり変えられていく光景を見て、矢も楯もたまらない思いからであった。この調査結果は1974年11月、東京都教育委員会により「文化財の保護」第7号、特集東京の自然の中に「東京都南多摩地区植物目録」として発表させていただいた。多摩ニュータウン造成をはじめ多摩地域の丘陵部の開発はすさまじく、自然の喪失は目をおおうばかりであった。そのさなか、かつての自然の姿や生育した植物たちを多数記録し、標本を得られたことは本当によかったと思っている。

インフォメ 多摩川

多摩川流域の各種団体等の12月から3月頃まで行われる環境活動に関する主な行事・イベント情報を紹介いたします。

☆ 美しい多摩川フォーラム

1. 第6回多摩川子ども環境シンポジウムを開催
(12月14日14時～16時半：昭島市、フォレスト・イン昭和館)
2. 第6回美しい多摩川フォトコンテスト審査結果公表(2月3日)
(応募受付：12月31日まで)
3. 第6回美しい多摩川フォトコンテスト入選作品展
(3月18日～23日：青梅市立美術館)
(問合せ先) 美しい多摩川フォーラム事務局(青梅信用金庫 地域貢献部内)
担当：宮坂／土方／及川
TEL：0428－24－5632 FAX：0428－24－4650
E-mail：forum@tama-river.jp URL：http://tama-river.jp

☆ 多摩川源流研究所 源流研究所・源流大学・多摩川流域ネットワーク関係

多摩川源流フォーラム

- 主催 全国源流の郷協議会・小菅村
- 協力 多摩川流域懇談会・多摩川流域ネットワーク
- 場所 川崎市多摩区・せせらぎ館
- 日時 12月1日

第3回源流白書検討会

- 主催 全国源流の郷協議会・小菅村
- 場所 東京都 全国町村会館
- 日時 12月11日

多摩川源流懇談会運営委員会

- 主催 多摩川流域懇談会
- 協力 多摩川流域ネットワーク
- 場所 川崎市多摩区 せせらぎ館
- 日時 12月16日

多摩川源流大学講座 鉄砲ぶちと山歩き

- 主催 源流大学
- 協力 小菅村・源流研究所・NPO 多摩源流こすげ
- 場所 小菅村
- 日時 1月25日～26日

多摩川流域懇談会運営委員会

- 主 催 多摩川流域懇談会
- 協 力 多摩川流域ネットワーク
- 場 所 川崎市多摩区 せせらぎ館
- 日 時 1月10日

第42回多摩川源流セミナー

- 主 催 多摩川流域懇談会
- 協 力 多摩川流域ネットワーク
- 場 所 川崎市多摩区 せせらぎ館 (予定)
- 日 時 2月9日

(問合せ先) 多摩川源流研究所 担当 中村文明
TEL 0428 - 87 - 7055 FAX 0428 - 87 - 7057
E-mail genryu@ec3.technowave.net.jp
URL : <http://www.tamagawagenryu.net>

☆ 一般財団法人 世田谷トラストまちづくり

○冬のバードウォッチング～多摩川周辺

・1月25日(土) 午前9時30分～11時30分 ※要申込

○世田谷トラストまちづくりビジターセンター「身近な自然と触れ合うミニイベント」

- ・原則毎月第3土曜日 午後1時30分～3時 (12/21と2/15は午後1時～3時)
～世田谷区成城4-29-1(野川沿い) ※要申込 / TEL03-3789-6111
- ・「みどりの上映会」毎週土曜日 午前10時～午後3時 随時・申込不要

(問い合わせ先) (一財)世田谷トラストまちづくり トラストまちづくり課
TEL 03 - 6407 - 3311 FAX 03 - 6407 - 3319
財団HP <http://www.setagayatm.or.jp/>

☆ 多摩川大学ふれあい移動水族館

12月1日	日	おさかなポスト見学学習会 多摩区稲田公園おさかなポスト 申し込み制 13時～15時 会費500円 申し込み制
12月7日	土	清瀬市立清瀬第三小学校 道徳地区公開講座 体育館 10時30分～11時30分 無料 申し込み制
12月8日	日	多摩川釣り大会 詳細 問い合わせ下さい
12月12日	木	東京ビックサイト エコプロダクツ 出展 見学自由
12月13日	金	東京ビックサイト エコプロダクツ 出展 見学自由
12月14日	土	東京ビックサイト エコプロダクツ 出展 見学自由
12月15日	日	多摩川ジュニアガイド 多摩川自然観察会 多摩区二ヶ領上河原堰付近 申し込み制 13時～15時 会費500円 申し込み制
12月22日	日	ふれあい移動水族館 川崎市多摩区菅子供文化センター 子供限定 申し込み制
12月28日	土	おさかなポスト お餅つき 申し込み制
12月29日	日	多摩川ジュニアガイド 多摩川自然観察会 多摩区二ヶ領上河原堰付近 申し込み制 13時～15時 会費500円 申し込み制
1月4日	土	おさかなポスト見学学習会 多摩区稲田公園おさかなポスト 申し込み制 13時～15時 会費500円 申し込み制
1月5日	日	多摩川ジュニアガイド 多摩川自然観察会 多摩区二ヶ領上河原堰付近 申し込み制 13時～15時 会費500円 申し込み制
1月11日	土	おさかなポスト見学学習会 多摩区稲田公園おさかなポスト 申し込み制 13時～15時 会費500円 申し込み制
1月12日	日	多摩川ジュニアガイド 多摩川自然観察会 多摩区二ヶ領上河原堰付近 申し込み制 13時～15時 会費500円 申し込み制
1月18日	土	おさかなポスト見学学習会 多摩区稲田公園おさかなポスト 申し込み制 13時～15時 会費500円 申し込み制
1月19日	日	多摩川ジュニアガイド 多摩川自然観察会 多摩区二ヶ領上河原堰付近 申し込み制 13時～15時 会費500円 申し込み制
1月25日	土	おさかなポスト見学学習会 多摩区稲田公園おさかなポスト 申し込み制 13時～15時 会費500円 申し込み制
1月26日	日	多摩川ジュニアガイド 多摩川自然観察会 多摩区二ヶ領上河原堰付近 申し込み制 13時～15時 会費500円 申し込み制
2月1日	土	おさかなポスト見学学習会 多摩区稲田公園おさかなポスト 申し込み制 13時～15時 会費500円 申し込み制
2月2日	日	多摩川ジュニアガイド 多摩川自然観察会 多摩区二ヶ領上河原堰付近 申し込み制 13時～15時 会費500円 申し込み制
2月8日	土	おさかなポスト見学学習会 多摩区稲田公園おさかなポスト 申し込み制 13時～15時 会費500円 申し込み制
2月9日	日	多摩川ジュニアガイド 多摩川自然観察会 多摩区二ヶ領上河原堰付近 申し込み制 13時～15時 会費500円 申し込み制
2月15日	土	おさかなポスト見学学習会 多摩区稲田公園おさかなポスト 申し込み制 13時～15時 会費500円 申し込み制
2月16日	日	多摩川ジュニアガイド 多摩川自然観察会 多摩区二ヶ領上河原堰付近 申し込み制 13時～15時 会費500円 申し込み制
2月22日	土	館山市中央公民館(館山コミュニティセンター) 安房生物愛好会 講演会 午後1時30分～3時
2月23日	日	多摩川ジュニアガイド 多摩川自然観察会 多摩区二ヶ領上河原堰付近 申し込み制 13時～15時 会費500円 申し込み制
3月1日	土	おさかなポスト見学学習会 多摩区稲田公園おさかなポスト 申し込み制 13時～15時 会費500円 申し込み制
3月2日	日	多摩川ジュニアガイド 多摩川自然観察会 多摩区二ヶ領上河原堰付近 申し込み制 13時～15時 会費500円 申し込み制
3月7日	金	3.11東日本大震災 追憶と鎮魂 東北復興応援 多摩川燈籠流し 川崎市多摩区稲田堤の多摩川 京王電鉄相模原線鉄橋下 準備ボランティアさん募集 詳細お問い合わせ下さい。
3月8日	土	3.11東日本大震災 追憶と鎮魂 東北復興応援 多摩川燈籠流し 川崎市多摩区稲田堤の多摩川 京王電鉄相模原線鉄橋下 15時受付開始 16時～19時 参加無料 ※当日のボランティアさん募集 詳細お問い合わせ下さい。
3月9日	日	麻布大学 多摩川環境講演会 省察お問い合わせ下さい。
3月15日	土	おさかなポスト見学学習会 多摩区稲田公園おさかなポスト 申し込み制 13時～15時 会費500円 申し込み制
3月16日	日	多摩川ジュニアガイド 多摩川自然観察会 多摩区二ヶ領上河原堰付近 申し込み制 13時～15時 会費500円 申し込み制
3月22日	土	おさかなポスト見学学習会 多摩区稲田公園おさかなポスト 申し込み制 13時～15時 会費500円 申し込み制
3月23日	日	多摩川ジュニアガイド 多摩川自然観察会 多摩区二ヶ領上河原堰付近 申し込み制 13時～15時 会費500円 申し込み制
3月29日	土	おさかなポスト見学学習会 多摩区稲田公園おさかなポスト 申し込み制 13時～15時 会費500円 申し込み制
3月30日	日	多摩川ジュニアガイド 多摩川自然観察会 多摩区二ヶ領上河原堰付近 申し込み制 13時～15時 会費500円 申し込み制

*ふれあい移動水族館・おさかなポストの会 代表 山崎充哲

メールアドレス RiverRanger777@gmail.com

TEL 090 - 3209 - 1390

☆ 川崎市域水辺の楽校

かわさき水辺の楽校

1月12日（日）10:00～二ヶ領せせらぎ館前河川敷

～多摩区合同手作り多摩川凧揚げ大会～

日本凧の会指導

3月23日（日）10:00～東名下湧水で魚釣り

この時期にしか捕れないこ魚に挑戦！

連絡先：佐々木梅吉（090－8850－0065）

とどろき水辺の楽校

1月19日（日）10:00～とどろき水辺の楽校フィールド

凧揚げ・昔遊び・お雑煮大会

～寒さをぶっ飛ばそう！おいしいお雑煮が待っています！～

2月22日（土）10:00～エポック中原

～多摩川流域水辺の楽校発表会参加～

20校の水辺の楽校の集大成

3月30日（日）10:00～とどろき水辺の楽校フィールド

～クリーンアップ&焼き芋&じゃがバター大会～

春の開校式を迎えるために清掃活動！ホクホクのおいもで暖まろう！

<http://www.todoroki.org/>

連絡先：鈴木 眞智子（090－5814－9604）

だいし水辺の楽校

1月25（土）10:00～大師河原干潟館

凧揚げ大会

2月15日（土）10:00～大師河原干潟館

～野鳥と野草の観察～

3月22日（土）10:00～大師河原干潟館

～春の野草つみ～

連絡先：佐川 真理子（090－2492－5480）

財団からのお知らせ — 助成研究募集のご案内 —

多摩川およびその流域の環境浄化に関する 基礎研究、応用研究、環境改善計画のための研究・活動助成の募集

公益財団法人とうきゅう環境財団（理事長 西本 定保）は、1975年（昭和50年）より、多摩川およびその流域の環境浄化の促進や自然環境の保全などに必要な調査や試験研究を毎年公募してきています。その結果、これ迄に1,152件（新規・継続—学術研究722件、一般研究430件、13億6千万円）の調査・試験研究のお手伝いをさせていただきました。

2014年（平成26年）4月からの助成についても、従来と同様、意欲的な調査や試験研究を募集致します。

1. 応募資格者

下記研究対象テーマに掲げた調査や試験研究に意欲のある方であれば、どなたでもご応募いただけます。

2. 助成研究対象テーマ

- ①産業活動または住生活と多摩川およびその流域との関係に関する調査および試験研究
- ②排水・廃棄物等による多摩川の汚染の防除に関する調査および試験研究
- ③多摩川およびその流域における水の利用に関する調査および試験研究
- ④シンポジウム、音楽会あるいは出版等による環境啓発活動や、歴史的な遺産あるいは社会システムの維持保全・回復運動等、多摩川及びその流域における環境保全や文化の創造に広く寄与するもの。

3. 応募方法

当財団所定の申請書に必要事項を記入、捺印の上、財団宛ご提出下さい。

「募集要項」「申請書」はホームページ上からダウンロードして下さい。

<http://www.tokyuenvironment.or.jp/invite>

4. 助成の決定

2014（平成26年）年3月に開催予定の当財団選考委員会で選考のうえ、理事会に諮って最終的に決定致します。

5. 応募締切日 2014年（平成26年）1月15日（水）消印有効

6. 応募にあたっての注意事項

- ①ご応募にあたっては当財団の定める「調査・試験研究助成に関する調査・試験研究の選定基準、助成の方法、調査・試験研究の実施方法、助成金の支払い方法ならびに調査・試験研究者の個人情報保護の方法に関する規程」を必ずお読み下さい。
- ②過年度に不採用となった調査や研究の再応募は受付けておりませんので、同一の調査・試験研究課題で再応募される場合は、前回のものと調査や試験研究の内容のちがいがよく判るよう工夫して、申請書をご作成下さい。

（次ページへ続く）

7. 助成研究の種別と諸条件

研究の種別	学術研究	一般研究
研究の区別	環境問題改善のための調査や試験研究で、専門性が高く、その分野の学識経験を必要とするもの。 (財団のホームページで過去の研究事例をご参照下さい)	環境問題改善のための調査や試験研究で、一般の市民が、特別な学識経験を必要とせず取り組めるもの。
1件当たりの助成金総額の上限額	400万円	100万円
単年度の助成金上限額	200万円	100万円
研究期間	最長2ヶ年	最長2ヶ年
助成対象費目	直接研究に使用する器具備品で一個、又は一式10万円以上の固定資産。 調査や試験研究に用いる各種材料、部品、薬品等。 調査や試験研究のための交通費、宿泊費等。 調査や試験研究のために臨時に雇った人の謝金等。 器機・設備などの賃借料、通信費、その他。	
尚、一般研究については、従来からの調査・試験研究に加えて、シンポジウム、音楽会あるいは出版等による環境啓発活動や、歴史的な遺産あるいは社会システムの維持保全・回復運動等、多摩川およびその流域における環境保全や文化の創造に広く寄与すると思われるものも選考の対象といたしましたので、奮ってご応募下さい。		

「いきもののつながり」環境紙芝居 15のおはなし

No.13 水辺の秋のいきものの様子

秋の水辺のいきものは、寒く厳しい冬を迎え、越冬するため、また種子によって自分たちの子孫を次代につなげるための工夫に満ちています。

植物では、オオオナモミの種が実っています。種の周りには先端の少し曲がった独特のとげがあり、動物の毛や人間の衣服にひっついて散布（動物散布という）されます。自分では移動できないオナモミは、移動ができる動物にひっついて種を遠くまで運んでもらうことによって、子孫を増やすという工夫をしているのです。

秋の河原や原っぱを歩くと、オオオナモミの他にもズボンなどにたくさん種がひっついてなかなか取れなくなります。そこで、虫ではありませんが、これらの種の仲間を「ひっつき虫」と呼んでいます。

画面右は秋を象徴する鳥モズです。モズは秋になると、「モズの高鳴き」といって「キーーキーーキーー」という鳴き声で、自分の餌場の縄張りを宣言します。見通しの良い開けたところの木のてっぺんでよく鳴いています。

モズの足元の小枝にエンマコオロギが刺さっています。これは「モズのはやにえ」といって、モズは、つかまえた餌を、木の枝やとげ、有刺鉄線などに刺しておく習性があります。「なぜ、モズはそのようなことをするのか？」子どもたちと一緒に考えてみましょう。

また、大きな河川では、イタチやキツネといった小型の哺乳動物を見ることがあります。これらと出会えることは、豊かな生態系が成立していることの証明にもなります。



絵：大田黒摩利

「いきもののつながり」制作プロジェクト 代表 下重 喜代

発行 サステナブル・アカデミー・ジャパン
E-mail: kiyo-sun@nifty.com

- 発行日 平成25年12月1日
- 編集兼発行 公益財団法人とうきゅう環境財団
〒150-0002 渋谷区渋谷1-16-14
(渋谷地下鉄ビル5F)
TEL (03)3400-9142
FAX (03)3400-9141
ホームページ <http://www.tokyuenvironment.or.jp/>

